

不健康の原因は食品アレルギー（ナス科植物とリウマチ性関節炎）

先の、「プラナマン博士」の書いた著書（1984年出版）の「ベシク.オブ.フード.アレルギー」（全456P / \$149.00）に、こう書かれている。

食品アレルギーの暗礁は、胆嚢だけにとどまらない。食品アレルギーが広井範囲で健康状態に悪影響を及ぼします。

実際、私の患者の40～50%は、食品アレルギーを解決する事で症状が改善されたり、すっかり消失した。

食品アレルギーは、体のあらゆる部分で、あらゆる事を起こしうる。

その著書に記載されている、「食品アレルギーで起こりうる疾患」の一部を紹介します。

喘息	学習障害	膀胱炎	軽い脳の障害	頭痛	過敏性大腸炎	感染症
うつ病	関節の痛み、張れ	十二指腸潰瘍	夜尿症	浮腫	腎炎	
疲労	発疹	慢性の腰痛	下痢	低血糖	めまい	潰瘍性大腸炎 など

もちろん、以上の疾患や症状の起こる原因は必ずしもアレルギーばかりではありません。しかし、アレルギーが関わっているケースも非常に多いのも事実です。

人は「痛み」に弱い事が良く分かります。

ついつい、痛みに対しては「鎮痛消炎剤」を服用してしまう。

でも、時々起る「頭痛」に対して、時々「服用」するくらいなら、まだ「副作用」に対しても、抵抗力を維持できますが、「1年365日24時間」ず～と「痛い」時に毎日服用する「消炎鎮痛剤」に対しては、計り知れない「副作用」が伴います。

特に、関節炎などを伴う「リウマチ性関節炎」は、その痛みは罹患している方でないと分からないと思います。

「痛風」もそうですね。

読んで字のごとく「風が吹いても痛い」のですから・・・

一度変形してしまった「関節」は、食事療法で完全させる事は出来ません。

しかし、日々の「痛み」の軽減が、食事療法で改善がある程度可能なら、試みる価値は十分にあると思います。

関節炎と食品過敏症との関わりは結構関わりがあります。

しかし、「関節炎の権威」と言われる医師の多くは「否定的」です。

関節炎には、痛風、リウマチ性関節炎、骨関節炎など、いくつかのタイプがありますが、

このうち、痛風からくる関節炎は、食品アレルギーとの関連は「薄い」と言われています。
痛風の痛みは、キサンチン・オキシダーゼと呼ばれる酵素の働きが過剰になって尿酸の合成が促進される事によって起こります。

リウマチ性関節炎は、食品過敏症が原因で発病する訳ではありませんが、ほとんどの患者さんで食品過敏症によって、症状を悪化させます。

「薬品を使わない自然な治療」を行っている医療家の必読書になっている

「An Alternative Approach to Allergies」(著者：シーランス・ランドルフ医学博士)は、過敏症を起こす、食品や化学物質を排除することにより、リウマチ性関節炎の症状が著しく改善されたケースを詳細にレポートしています。

その中のレポートから

アレルギーや合成添加物などを排除する事で、程度の差はあれ、ほとんどのリウマチ性関節炎の症状が改善された。

それによって、必要な薬品の量を減らす事が出来た。

関節炎の多くの場合、関節部の変形を伴うが、この進行のプロセスにアレルギーが関わっている。

様々な原因があるが、最近になってアレルギー反応を伴わない、ナス科の植物への過敏性が注目されている。

ナス科の植物に含まれる天然の化学物質への過敏性が、関節炎を進行させている事が分かった。

と報告しています。

主な、ナス科の植物には、「ナス」「じゃがいも」「トマト」「ピーマン」「タバコ」などがある。

「ナス科」には「ベラドンナ」などの有毒植物(アトロピンという猛毒成分です)がありますが、【同時にベラドンナにはスコポラピン、ヒヨスチアミンなどという名前の、幻覚や錯乱状態を引き起こす成分も含まれており、小さな子供なら5,6粒も食べれば命が危ないです。】他のナス科の植物である「トマト」や「とうがらし」「じゃがいも」にも多少含まれています。

「ナス科植物除去食」を試みしてみる価値はありそうです。